
北神 志乃さんの人生

るしりす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

北神 志乃さんの人生

【Nコード】

N63590

【作者名】

るしりす

【あらすじ】

父がアルコール性精神病。母がうつ病と睡眠薬依存症

母方の祖父は人格に問題あり、後に老人性精神病

主人公はそんな家系にふりまわされ、血筋を呪い憎悪する

だが選んだ職業は精神科看護師

そんなどこにある現実のある人間の一生です

精神病患者によって壊されたある現実の一生（前書き）

精神病の家系を両親ともに受け継いだある女性の実話です。

本人は自分も発症するのではないかとおびえて生きています。

つまりは暗い話です。本人が実際にみた精神病の恐怖が描写されています。

精神病患者や患者を擁護される方は読まないでください。

なお、一切の苦情は受け付けるつもりはありません。

精神病患者によって壊されたある現実の一生

人はいろいろいるもんで 人生もいろいろです。
北神志乃さんの人生を覗いてみました。

彼女の記憶は3歳から始まる。

川の土手を父に抱えられ、真夜中に土手の下にある家を目指していく。

父が何を考えてこんな夜中にどこにいくのかわからない。ただ、連れて行かれるだけ。

土手と近くの高校から続く小道との三叉路、その下に2階建ての家があった。

家のまえには一抱えほどの石が無数に無造作に積み重ねてあり、周囲は水田で囲まれて一軒だけたっている。

近所の家は水田ひとつ分向こうにあり、街頭すらなく真っ暗である。

その家の前で、父は志乃をおろすとおもむろに近くの石で玄関のガラスを割った。

玄関の引き戸ガラスの右下を割ると、父は志乃を連れて家に入ってしまった。

志乃の記憶はここで暗転する。

再び記憶が再生できるのはその家の居間だ。

彼女は居間のテレビの前で座っていた。背中をテレビに預け、両足を伸ばしている。

気を失っていたようだった。

中央においてあったらしいテーブルがひっくり返っている。あたりは物が散乱している。

薄暗くてよく見えないが黒いものがあちこちの壁や床についている。いや、飛び散っているのか？

志乃が何が起こっているかを考える前に、左手の廊下から悲鳴と走る足音が聞こえてきた。

2人の人間が目の前を走っていった。先に40歳くらいの女性が、左手の廊下から右手の開いていた外への大きな窓へと走っていった。それを追いかけて、志乃の父が包丁をもって、壮絶な笑いを浮かべながら追いかけていった。

志乃の記憶は再び暗転する。

次の記憶は救急車の中。

複数のけが人の中、父は担架にのっていた。

「志乃、手をにぎってくれ」

父がそういって手を伸ばしてくるのを、志乃はなぜか何も考えずに握るしかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6359o/>

北神 志乃さんの人生

2010年11月1日04時30分発行